

## そうばんねんぶつ 双盤念仏ってなんだろう？

そうばんねんぶつ みぎ しゃしん たいこ かね  
双盤念仏は、右の写真のように「太鼓」と「鉦」  
を打ち鳴らしながら唱える念仏のことです。こう  
した集団を「双盤講」と呼び、延命寺の双盤講に  
よる演奏は東京都の無形民俗文化財に指定されて  
います。さまざまな音色やリズムの曲がいくつも  
あり、習得までに10年かかるといわれます。



むかし たら そうりよ まい かね りょうて たた  
昔はお寺の僧侶がひとりで2枚の鉦を両手で叩いていたので、「ふたつ」という意味の  
「双」の字が名前についています。江戸時代になると、お寺からやり方を教わった庶民が双盤  
講を結成し、法要や縁日（お祭り）の日に演奏するようになりました。明治時代には関東地  
方全域で双盤念仏が流行し、いろいろな講がお互いのお寺を往来しては、叩き方や声の  
出し方などをほかの講とどちらが上手にできるか競い合っていました。

たいへいようせんそう かつどう せいげん かね  
太平洋戦争により活動が制限されたり鉦がなくなってしまったため、ほとんどの講はやめ  
てしまいましたが、延命寺の双盤講は伝統を守るために鉦を作りなおし、現在まで活動を続  
けてきました。都内に残る双盤講はわずか6団体で、そのうち文化財に指定されているのは  
4団体（延命寺は23区内で唯一）です。文化財は、矢口に住むみなさんだけでなく、大田区  
や東京都のみんなで助け合いながらいつまでも大切にしていきたい、みんなにとっての  
宝物です。ぜひ双盤念仏を覚えておいてくださいね。